別紙

研 究 等 成 果 報 告 書

研究費の区分	基盤研究費・学部等研究費・全学研究費 種目：
研 究 課 題	岩手県立大学における英語教育プログラムの改革と再構築
学部等・職・氏名	共通教育センター・講師・高橋英也（他　英語科教員）
研究成果の概要	本研究においては、昨年度よりの継続的研究であり、その目標は、本学における現行の英語（外国語）教育の問題点を列挙・整理し現行カリキュラムを抜本的に見直すことである。本年度は特に以下の２点について研究を行った。 （１）TOEIC 等の資格試験を利用した英語教育のあり方に関する調査・研究 （２）本学の英語カリキュラムの見直しに関する研究 （１）については、九州産業大等をはじめとする他大学の先進的実践事例の検討を行い、その中で本学の習熟度別クラス編成への TOEIC Bridge 導入について議論した。その結果２０年度４月より従来の TOEFL ITP にかわって実施することとした。同時に、連動する形で、（２）について「習熟度別クラス編成のあり方」を英語科の重要な検討事項の一つに掲げて過去の実施データの調査・検証を開始した。また、課外学習支援として Language Table を実施した。カリキュラムの見直しについては、本学における英語教育を取り巻く様々な状況の中、限られた議論には留まったが、現行のカリキュラムの問題点は整理され、個々の英語教員の間で議論の基盤となる共通認識はできたと思われる。 以上が研究成果の概要である。現在、本学の英語教育（ならびに英語以外の外国語教育）のあり方が注目されている。現状の問題点の整理を行えたことで、今後のさらなる継続的研究に進む基盤はある程度整ったと言える。
目標の達成状況	上記「研究成果の概要」で述べたとおり、本学の現状の英語教育の問題点の列挙・整理はかなり進み、項目によっては具体的検討がかなり行われた。しかし、より詳細な検討やその先の改革案作成ということまでには至れなかったと言える。その理由としては、新学部構想の進行などの状況の中で改革案の実現可能性を論じることが難しい状況があった。また、他大学の事例研究をさらに入念に継続する必要性があることも認められた。本研究は２０年度以降の実質的研究に至るために必要な予備研究・調査として位置づけられ、その目標は十分達成されたと言える。
成果発表等	２０年度前期をめどにこれまでの研究成果をまとめる予定である。

注　学会発表論文等の成果発表資料を添付すること。（成果発表資料がない場合は、研究実施レポートを添付すること）